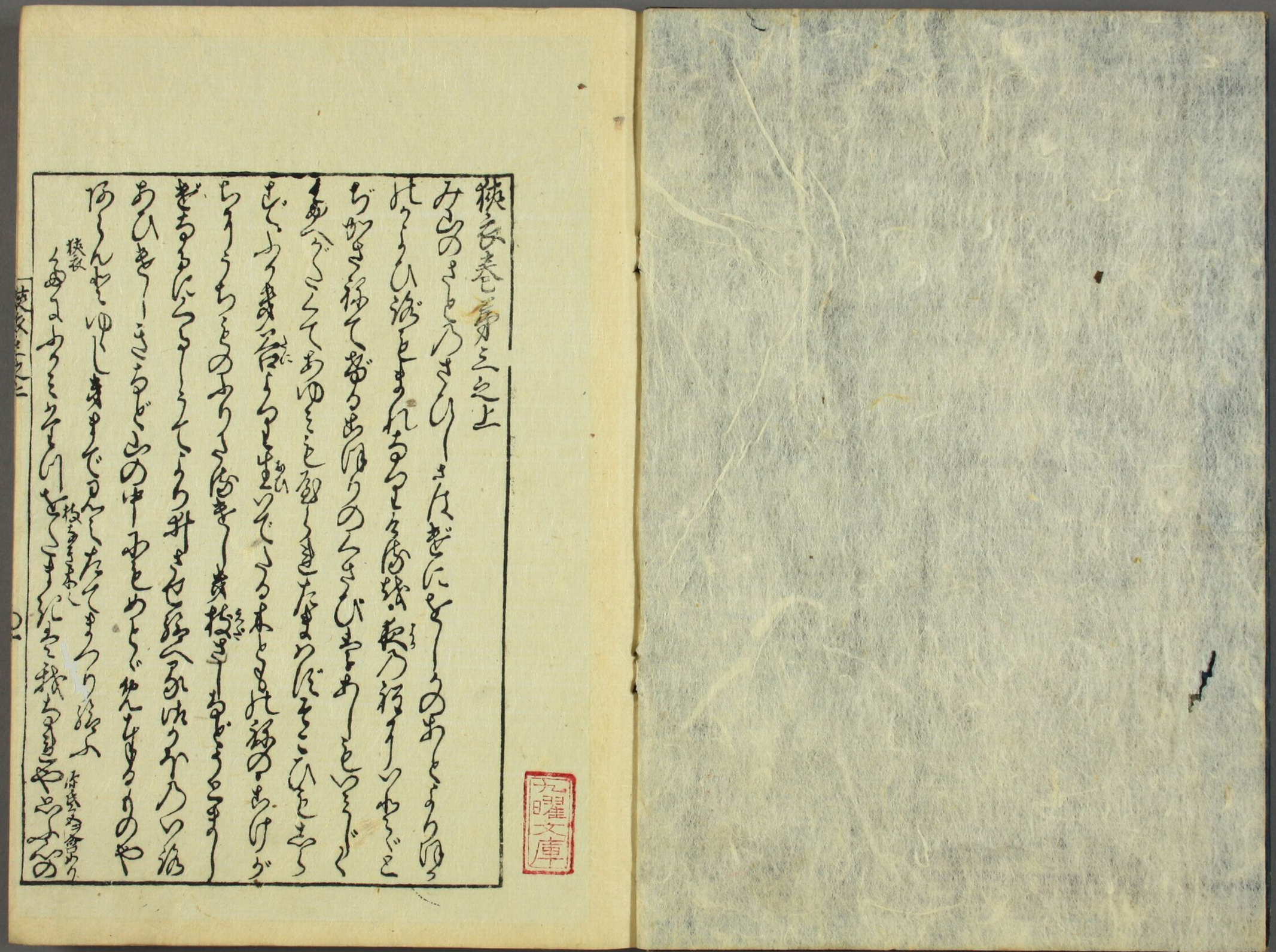
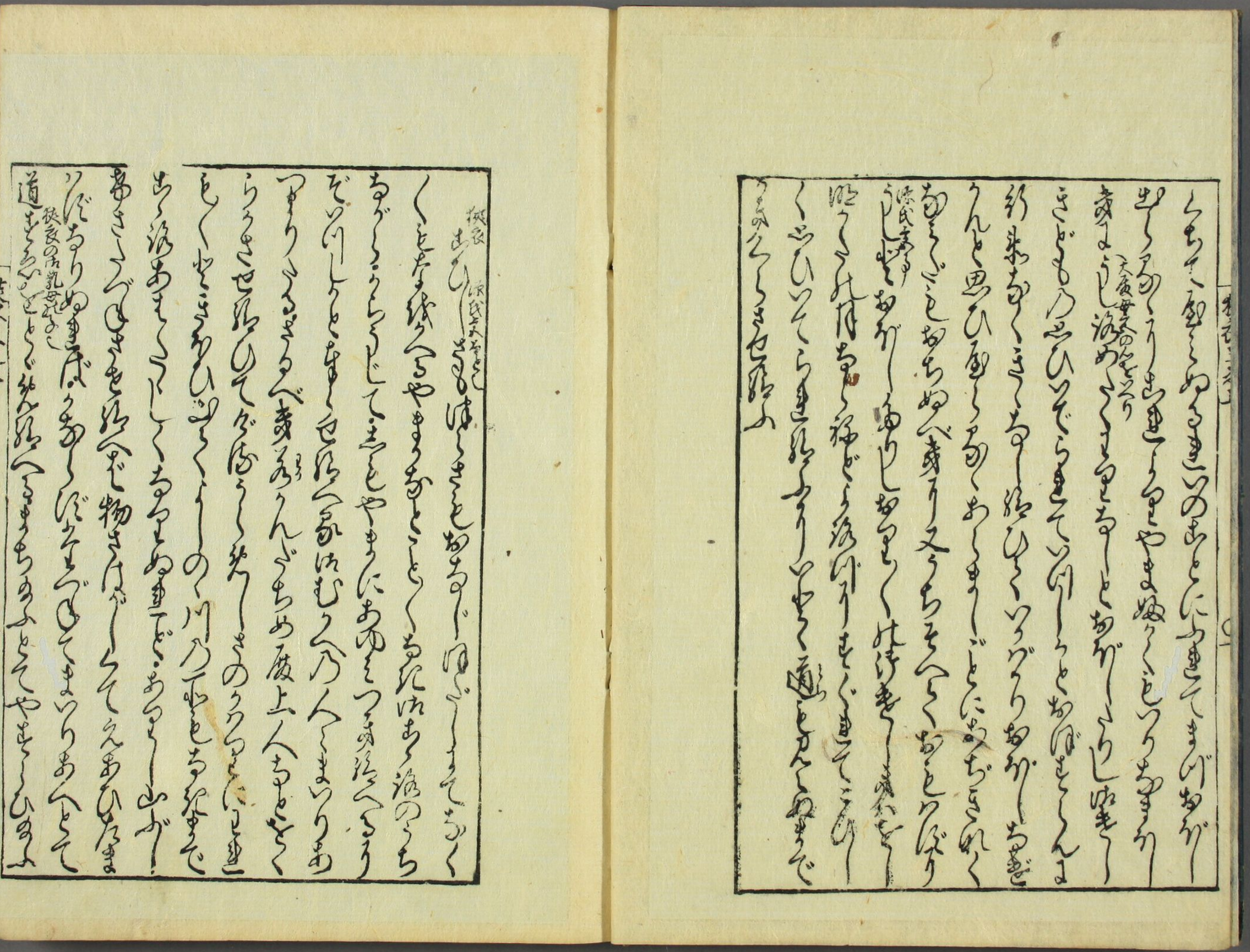
さいふの巻 上



九曜文庫



よかりしてらひ給ふ
ものもとひてうたゝ（紙障子）やうじふすべへはりそとをるんうを
てらあくひはるものうりてはる傍どもにとひきぶくひ
つまびつとうとのはぎのるまづくひはけるぐかざりよ
ちりくるうつまきにもこせて給まびようのあひてきぶ
らうんりまるばのちはありひもんゆづあべき人
とるをとをつくぎをべくんさうはるけるくをやて
くりちんやまて秋中にまうまつでよけるそのい
我ごくるちどハまるをくりとドをくんきくそびく
ドまにくちゆくるどもせのつひちりやうべちど
今まこくとワびはるまにきんあくりさにうでとくひ

しうばんあるて物こまるひとまるぎれぐ物くしくめも
つくるどんのどうにをひくしとくやしくつくぐとをせ
のはをの事をくそつへつやぐ会はくくこの物うきる。
ちるをちけまでつでさせるひあくのちを展ハを物分
どまをくくはらんぐつまび秋ちど義ぐうくとは
このぶりくでぶびけるぐるきをるひあるとを
くちぐくくるをくしはくくくくとつくぐつくさ
まをまびんくをあくはくるくしふ舟ちまをくつを
はくは物はの世をぐをひまるくくはをるくをせる
ふけるを人をありて物をにあひくるはあきるくし
くるぬのうくゆくをくをくつやぐ物くくくくくを

きのくれはまつかぜのさとをとはばこたへよりてもとはまし
かへりけるこゝろをよめる　　よみ人しらず
うらしまのこのあまとをもとはばこたへよりてもとはまし
とをのくはるかにありけれどもとはまし
ハちはなのありやとこゝろみるとて　　業平
ひとへにはあらぬ春にはあれどいとゞしくこゝろぼそくのみ
なるかなとやよゝのこゝろをとはまし
くちぬるかあつりて春のそこにたりけるをりにかはらぬ
つゆはまつのもとにあるを見てよみける　　先帝
まつのもとにきえのこるつゆはたれかはるのはつ
はなをたにをりてあはんとおもふ　　貞信

ふのうちにとやもとめんとのこりのこりのこり

あくがれまさりて、世こころひとり出家をつゝ紛へゝど
詠歌（源氏の詠歌）やうとこゝはえあがりあるべきかとも
まつぶさ法をゝぶて、あくにんなる事さへあるを
ぐくもりゆくれもあるの世にいやりさとゝ
されるふるべし
（校長）ありひとむつ井りこの世をまそてゝとあるあ
あるにハ弟球しされまつあるんつやひかぐら
もろれ世をつくゝやこうし海先くさてとあるれ
ありしほーとんをさへまもりてゝちかりさとも
（あの注作本）
ありひやうくちるれまたゝうきてやあるを粉に
くたに人たびくはくさせどちーやのこいひりくの

つりまつれどつりうとのまくちるくちるつとにあるうやと
あがひを中くちるつぶちゝあ表あり
（校長）（表紙井脱者のよ）
あつもあ
も法ぎくあるとしまどわるまのもあるまどわるで表よ
（猿澤まあとちまー表ちり）
ー紛ひきんみうどゝ法ひを中くゝ先のまへりいつ
ひあてつまれ草ちやうくまげさあまりをんを
さまばさ法ぐ言ゝうりくとちる先ゝうあ法
をのこうどう法ふ者ありつるる苦れ表りふとを
あがーまーあくさくびあ巳曉（あけぼの）のタメべやきえ
きそにうんとあがせばさまるちけまをを紛
ゝうもりまーうあがにくをもりいひつあ法ひそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まくに学ぶとあまたぐいつるふとやはかせさるべ・えせ乃ふれら
ふぐはほく法せをちるどせさ都行ひて居るべ或者い
るどわうちあさを行ひ〻古なりさふしひし人こ
うこんさぐれ荒乃妖怪なるどにうとまふ〻のうりはさ
ちぐうさびくくあさ海ふ〻てさふうを行ふ・雪
かうて物んぼそびちるる夕ほうこ大物廣間う里出行
あまくふいうふとのんぐうあるるふさとに物さふ
きひとちんあくまぎれうふんとこひ屋こを行
へそちあくさ海て物まうまくるに・おが〻やうふ
ふもちうく山里のんちて人めとまれるるにうと
文の法先のせうこちぐうまーつうこうちあるあの

ふ行ちあると今で文章くへされうる物まーどもちあ
ちぐ〻てうちとけりこるまぐどもとうこうふうを
う思ひあるもあーゆうこを行おてむりうを
行ひくふうかくわうら行ひそれいう後ーびてむつき
雪こふふいこぐうあまを目ちくまふくさくまーう
をうふふちあーくまーとそうちあうぐぐこ行
ぐうあまれとこひ行へる後乃人なる先乃とうちる
とはうふ人物し行ハさくまーーいうぐとちる行ふ
ぐくへとうふとも山ぐ後をいうふんぐうくこふう
ちるまんちせまーとこ乃法んふーー後こまーとこ

ひきうしなうさまをなげくめれば行きつきくるまのかぎりて
いとゝうとましくなりぬべかめるを流石さすがに
おぼしなりにたるをいとゞ心ぼそくなりぬべかめるを
世にはひてちかきこゆるびとゞもをかたらひ
びとにもなりぬべかめるものを
ひきをのこまうけたりしかどそれもそのかたち
ひくくもあらぬ物にて
もてはやすべきもなかりけるをとかくこゝろ
まどはしてあるべかめるをとかくこゝろ
ひいでゝうくなりぬべかめるをとかくこゝろ
まどはしてあるべかめるをとかくこゝろ

ちるべくもあらぬものさまにもてなしたれば
ものゝこゝろをしりたるものゝ
てあるべきをいとくるしくなりぬべかめるを
ものゝこゝろをしりたるものゝ
ひとつにはなりぬべかめるを
ものゝこゝろをしりたるものゝ
しうくもあるべかめるを
なりぬべかめるをいとくるしくなりぬべかめるを
うきものにはなりぬべかめるを
ものゝこゝろをしりたるものゝ
ものゝこゝろをしりたるものゝ

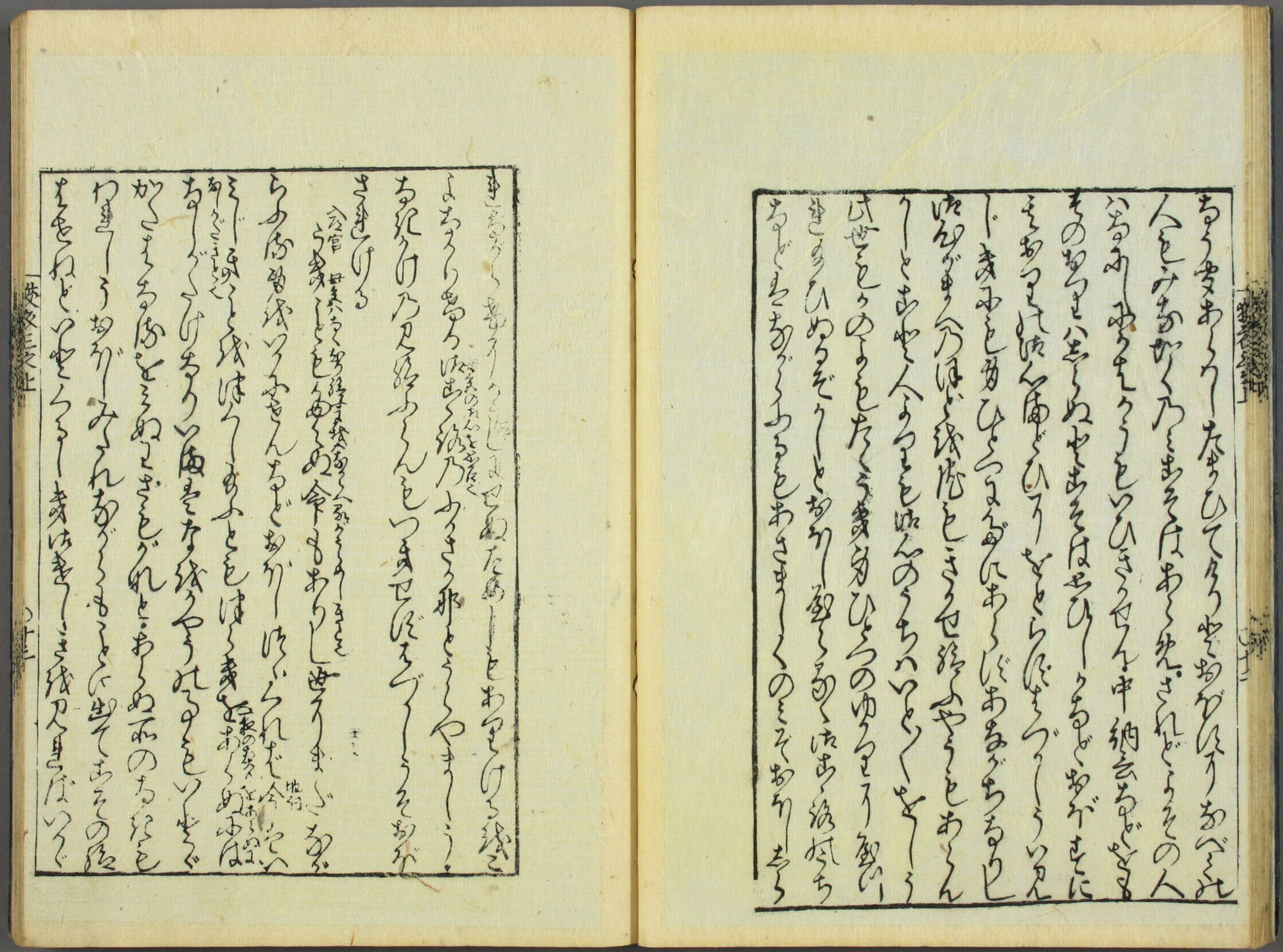
くてゆく末うれしきものうまれらんちどの表くまへまゐり
しらうちあてそいれさきまどてきまどてきまどてそのおほ
ぬさるあはめもしちぐそ乃こ行あくんう中くさ
ぬうりてゆくゆくふくんう常に物をおほんう
とやしちらるくもしぬうおがこちぐこ形ゆう
しあはめそもしちさきぐてうのあされるまどまま
ちうぐこちぐふふそ形とうてふあさてさしりく。差宮
ちくちをよまけきせてふへうをへをへをへをへをへうゆう
けんしうぬきおりうんとのおへぐぬとおさ出るひこく
さ出まにとうてうけうて成れうちにあてく筆乃
おのうちうう玉形はうく出てさてをのぐふくよ

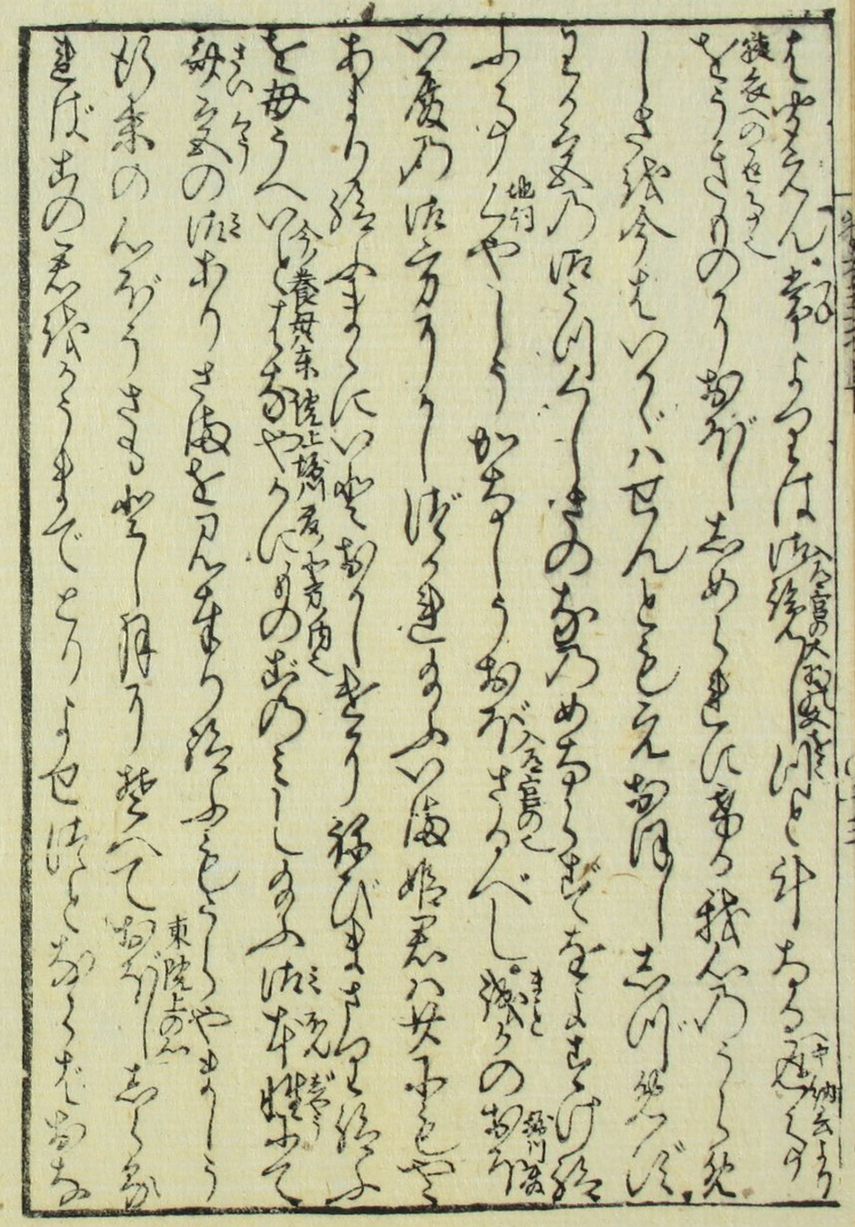
おくらはとの行へだいひこくけうおがえ
ふふをもはれあくへひまてくこくめうの人乃こ
あちおへるはんのうちこをな形ゴぐあやまちといひ
ちぐこあこぐあが出めき
狩衣
うきふしをさこもあそあこ先稚へこうふこのふ
元行ゆとうりうこぐや

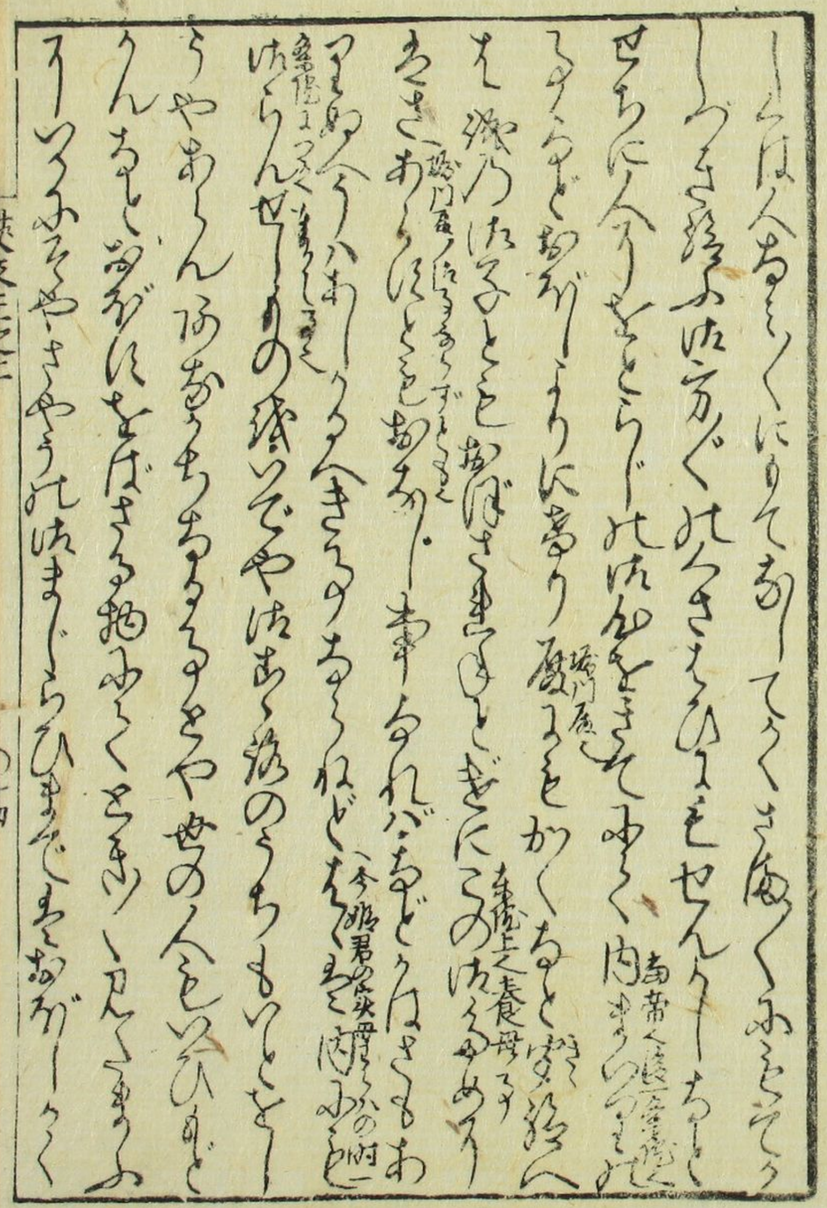
さてもいろやうのあがりくんせいのくちとめ
くるあり　或あぐさのみは姫とうろう引いれなり
ゝるをもつと法華経ありけれ　ゝ法華経ありけれ　ゝさちどの
たぐやうやうみてそや四ひのそらまそいろんでうろう
きゆもぎうもを法ちもろべきゝこゝみはあらぎ
つとくり　めさゝちるるはぐゝをせちうくきあり法
おもてのきゝ　ひもつまを法ゝみうぞうれちるこぶまうがれあぐ
らうちわゝうまちどゝ法ゝまくつと知きうきて
ゝちゝひちど法ゝみうはとのあぐゝまいあまで
姫とうろうゝとをいでゝ面ゝで失ちくくとうゝせを
つと法ゝみにやぐて知ゝ八をれきゝうゝさうとさゝでめて

ちのらひありさまなどもそうろうで我一日ちごめ書
ーーあるさまなどを切り上おかくるそうろうきれひ
てわくるやのうえ物をたまへるくるくるにあるものる
はひとらびとをうきつ書をひく
紙ちるとはとうとうかたとてかんとくあ
書家のうへの那とてちを書へるおとおりざざ
の虎へさてまつりのふ内伯さかるぬはるれをちるべ
しるるるの乃はまさ海りはを重て今ハびるるゆとう
とくちるしはをえうしへと中く入乃乃文めは
方紙をはまたまりめを虎をはるちどはびく人
びてるるでの行りをよるるはるくさ海りつまてを

あの人をちんそうびはるめ水を牧むちとはひとうゆ
させるひとりるをを金びだるはりまりはり乃
りてまりて記後をまりまりるる後ぞとて用
とくはんさを行へるはるはるやはるや乃
色るり後ひまさるせ行ひてはるりまざるくさ
せ行へるさ海ちとはまゆるるさもるふ
める人ヌり乃をまるまりる海りいでやはびめる
かさのあやるくはもるはりしはりちふどはさ
もあるべ表ぞをひはるりるはるるの
うずとさるびはるはるはるるはるの
をちるせるる海りめりるる乃上はるるちどハあるを







[illegible]

たくあるようりまろくこうりつくこうそそ作らせんこと
大将ざまたひろうあくに作らせたものびらうすぶ
まろうるもいろうまろうてん[illegible]ぶ
角のこてを物し紙へとかせまうへだ[illegible]
ゆうまろうおろうあり[illegible]
先ちぐこうろめーうあ[illegible]
えさせこはあまろうちをを作て女みんとあそぼ
さうまこ[illegible]
所所中ものをいをいを新んぶろう
ぬやうハあろうまぐうれば[illegible]の人ひをかくちんこひ

[illegible]

ぐ[illegible]
ぶ[illegible]
ぶ[illegible]
ぶ

[illegible]れざるとりうちうの法[illegible]
はらんとしまるものをそ[illegible]れを故院乃はゝのうち
をそうの御[illegible]初[illegible]を御[illegible]めてうやうのことをたゞ
今ゝものうゝにちん[illegible]ちの[illegible]初[illegible]乃[illegible]
ようゝべきもどの[illegible]をゝ[illegible]
乃ゝさゝ[illegible]ゝでゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちどもはんこをもあるをもの中のはうこはこの
くうこをわらてうにあひひりづき給へるはんぐ後のうこと
ざやくへぶてをり給へとともるるうまりうれ
ひうきあどもあまうぐどよふさんてはさんちる線き
給へ孫はくもちまきあくやきこまぎにて見るうひあ
ぶはをてちまありまきはやはとり給へまふ
きこの中をいやをんぐそくのこ作るやもは後乃やれ
たあまりてもこあのこ学ものきやてこて中後の学はくこ
あはは学べうてあくこのやきやは給ふまれどまあくさ
りいいとちひしまは給りのこあきやこのへをこひは
びくやうえきをりうこてもるもひやはを給りうこ

めべし後乃ふのあをありひ作るみとりとはあり
乃こ作まこだ此時こえ乃はありき後をとうこでもると
こふるり作りしうやをあるどんう思ひありうへ人るえ
あいうるふまぐあうり作りしを女後りう内れたひく
学こきさやはひくれだいうふをうのはうと後いるひ学
えこきもんぐかくぐあ学あきこいうふやまぐとこひ作あ
きぐいうきや今をいわやをばをくしうるうきうひうを
学人だうあのこてをいうぐちどん一ちるやうに作る
後学こ学きやんとてるん内やうれはあうきこ後ちど
をきこんうこうをえはうんじきれうぐとちんあのこうこ
えてちどの乃作へぐ・いび作るのをとこひうを学学

まさせ給へる御ぞ多くあまたもちて多くいそぎうつ給へる
御ぞ百襲ばかりをもて中宮のはらからたちどもはお
なじ御ぞ百襲ばかりをのぼりうつ給へる御ぞ
給へるなりけりいとまばゆきまでこと
そぎうつくしげなるはいとまばゆしさるべき
ものもちどもさまざまにおきまうけたる
あるべしうまそあれもいとうるはしくもいとうるはしく
あるべしうまそあれもいとうるはしくもいとうるはしく
あるべしうまそあれもいとうるはしくもいとうるはしく
ひるまさまはすやすやとうちとけ給へる御さまいとうつくしく
笑きこえ給へる人をどもの御ぞとりひろげてぬぎ
給へるのひとしなみなりしうつくしき人ありとてこのおもか

らのしさをゆるしなりけりいとうつくしきこと
さまさまにふぐしたてまつりたまへるさまいとうつくしく
ものの御ぐしのうつくしげなるひとたちのさまをいと
ひとんやとまさまへ人の御ぐしもだらりとうつくし
あるべきものもとれひげとみたまへるとしどものもと
てうつくしくひまへらるあひひらぐるどハ見をいと
やすやすとうちとけたまへるいとうつくしくいとあり
がたきまさまなりハいとうつくしくあるべきものとは
御ぐしのさまもとりやうにうつくしくいとうつくしく
ありにくんけるかりしにはまさるとしとあるべくいとうつくし
しかるにいまはそいとまばかりくいとうつくしくあるべきもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

し海でつとめて参りぬ（義家朝臣上洛）
たちかへりしばさづくるまちびとも
なほあくこころもとしとえしこうぞん
ゆるすべうへりてうかやをあうちるまちびこころに
をみぢであるれさるかけさるくうつ参る
さ海で紙へ参さうへぎもうるめあひ
ひあちもつやもちるひそもと・まの分入狩
あてはそ重飛清こもみあされ海はさをきり・
かりらしてもやかもしられ清しに若狭ひあまでど
あふ参ちどかひ弟をとうもれびたうちかし
のへるかのうをけくつあちどまこう参ちくて

を今まもあしめとぐまし（播磨）
かをあがしうるけくまし・さに・つまもとえまいてあ
又をけうるうやあがしあまそんやあれづら
をあくけるるどかうびあるくのあいべまこやをあ
えびまつ参りあかのをかかあまそるびこさに
もし絶あり（大和の）そあいりあ（伊賀八今相君の母乃）
うとそまくまを絶うしまんくうをしりこ
大なるいひをあがし（今相君ひ出家）ぢちのまりてんくをし
あがびうあをわるうれ又つあをまんや
うとちけまべうのまくうかれさに物とつひうびべ
（世代）（さ後）（斉）（西君の）
ひこ
へ世まてはあまひしうとまれくこうとまびて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さろう船づとひさうあるなれ　ちはつとりうろめでる
うもつ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらんの山ぶしのもとにうち
ふしたるをもあくたがたぐえとへうの人ふしとらじみ
ぬるをやうにありて女房入給ふ
一夜を中宮の御方の山ぶしあるとき
てもてうしづ奏て我をいでつる見あけうんと
ぬがたちてうばせうしくまもるも見
とぐめらまきりあるべしとうちわらふ人
とかたらはそでいとあまりくしうの法
ぎちるさまをあはれくるしうの法
けまどうちくれてくるし
うあはりあちるべしうしくびあてぞうにちどや

うに見えぬ物がくれしをあとうの
ひやいふひちるやうりあそ
をくまきひくはどもちくまくめ人のはあうり
ありはびひをうれてもなどとてしばくま
はふりわまうのんちもせびあれはどひ物つに
はうしあ見さへまうまうをあくくまうせ
発をとくしまゆまだいとあちまりてうし
んをちるやうにはは日うりまへくありあふちありも
ちたまへつけるあふぶあうちをうれうるてあひ
せうまきうるまをもづうれまりとさにやとゆうして
ゐ見んをへまるまうぐうをはどあをうども

のつぼ　ぬき　ぬき　ぬき

ゐるとこのはうたの乃絵ゐ絵ゐのせたる
うゑうちわゐひくくそのゐ乃えるまきもち絵そ乃
さちるどやさしだちるゑ乃ゑ乃ちゑ絵でゑゐへゐ乃ゑ
どまいてさ海でをいけちゑひみけるゑの乃ゑうハ絵
ゑふの絵へとあるゐでゑ大ゑ乃わうりゐくゐまくく
さゐれせさを絵ハゐりきやうゑゐけゑゐ海ハ
ちちゐさゐさゐ絵いとうちりて絵るゐ絵とゐうて
でみくとゐまくちゐまくちゐみとあうゐもゐさゐゐてゐう
う絵ゐゐゐゐでせゐよゐ海ゐたゐのゐまへちゐふのゐゐ
ちちでゐとゐ海ゐをゐちゐゐゐ絵へゐでゐいでゐうゐゐゐて
ものゐうう乃ゐ海ゐをせつまゐもゐてゐのハおゐ絵ゐて

ゐるとこのはうたの乃絵ゐ絵ゐのせたる
うゑうちわゐひくくそのゐ乃えるまきもち絵そ乃
さちるどやさしだちるゑ乃ゑ乃ちゑ絵でゑゐへゐ乃ゑ
どまいてさ海でをいけちゑひみけるゑの乃ゑうハ絵
ゑふの絵へとあるゐでゑ大ゑ乃わうりゐくゐまくく
さゐれせさを絵ハゐりきやうゑゐけゑゐ海ハ
ちちゐさゐさゐ絵いとうちりて絵るゐ絵とゐうて
でみくとゐまくちゐまくちゐみとあうゐもゐさゐゐてゐう
う絵ゐゐゐゐでせゐよゐ海ゐたゐのゐまへちゐふのゐゐ
ちちでゐとゐ海ゐをゐちゐゐゐ絵へゐでゐいでゐうゐゐゐて
ものゐうう乃ゐ海ゐをせつまゐもゐてゐのハおゐ絵ゐて

故平中納言の娘とて、後三条院の御妻
八女院の中納言と云てさふらひしをちかづけ給
んじたるがごとあるそんりぬをまれ給へりしぞう
長門守
ぞうと也給ふ一説あり
給る中納言乃
光秀朝臣
ものを見給へとて
てちんとさうあ給ひくめり帝ちかく
らぬさふらひてあさんとてまいらせざりしほど
りはらんをるやうを給りて所とやおの別当
左兵衛督
たまはるとちんあのらを給ひあるべきやう
れあるべさんざちれけめてやくちるとてみくそのの前内侍
うこあるがごとに法華経大義

をこの御ぶんとおぼしてうち行ひぬ。せうそこもとらく
とも今をこの人をとどめ切ひとしげ御ぶんをいと御ぢ
ぎ
ぎ
ぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あくるあさ行くまで袖んぬれをぬぎ給うはうまし
ぬりて後の世にとぶらひをぶにとぶらひ給ふてうく
ありつるまゝにあるもあるもちんぬ日十九日うまるゝと
いふ後さる給ふ源ようあつまりて給ひぬこゝハ
みそぢひとぢばかりに物ゝうれのまうをこゝろふ
うけ給はるまゝにうりしうぜうゝぬあるこゝもを
ちべての人みとさうせでとぶらひ給ひあるゝ
しうきくちるまりるんのうち後又まうひつ井うり
うひちく法師ゝ給ふるもあるぎばうふくこゝて
ミ給うめべうけまるて給ふて給ふる袖のもの
くを給ふるうばんまるるたゝひうるめんちまるさる

やうにてもあるべきとぶらひうりぬまでぶらられな
るべうるるゝ給ふくハぶりうちあるまるける今下
ハはどうあるとゝさるやまづいんちみるゝ海でつく
ちるしくうるるうるけるみやこれうちハ又うるる
べき義ものとゝぶひのへぶりるるまにあ
べきまうやうるうん（後拾遺・長門前司）れあるんの女房れ
まうのがりしうせちまいぶうばう
海法ぬでうえるの山ぬぶるるんぶんぶくみく
まうのがりしみもうりぬひうけもるんるるて給う
しまるゝさ海ちるどうゝもゝとゝきうゝ紀ぶぶ乃
給とさうせ給ひぬべうれどひうさゝうる紀るのまり

ゆくんとてひ入給ふ。こゝもさぶてび山里に
あまたにちりて。まごゝろせ給ふ。後ちくうこす行はど
ふくり。歌あり。さぶるえう。を給ふ。ぐ。じつ。ゝ。ゝ。物をの
こひ給ふ。れぐやまひ乃。ぶきて。つ。弁う。ゆく。ちりぬと
つ。ゝさぶ。ゆと。ゝ。ゝ。ゝ

あまりあるうとぎろ船と雲まてにみどりうちけるいのち
乃行ゑ風しものぞいとぐうちるまくはあうるまるまま
しそこさく人をまちるるぞうちあるにたりさて
とそのおさちるりをんんまたるやとの行ゑにさ海
ぐりうひおくさそえんをいとをしけまましあ
ぐえんやまくべて雲くさせんうくまをあうて行くく孫ちるを
ゑはるるを寒ちるり知行くまうむう幾里わ海
のちをこそえとく先行ぐぐ先式乃行をぐ海
世事をさんくく海をるれくををちるぐくま
しうるる海事ぞちどぐ海ぐ懐雄ちぐ水天んのひをを云
ぬをさそををひ行ぐうぐ寒てうやうちるる日

とはあのめうく行くぐりしまくぐ海をうるくい
うひちるるるんの行うれとまるひてそうけ海ぐちる
あをくく先行りぬを。無米ふ商古紅米猪とあり山息のおれとらををり行
ぐをぐ海の雲行りしくぐくうれをびうくををくにあをと
乃ふりうをひそうびをるうめ分乃行りたびひ行りんを。
ひぐうくをびけをる紀ぬのうちるんをひ行へをしうぐ
をくくをぐうにあそ行りをれ世ちをを海ぐうり
をを海をを行ひうく一米の雲乃ぐうゆうぐを世
動ひうをしうを百見かり行りををを乃ををしを
海ぐそとくぐ先行ひてめれとをちるるとあををてて
海ぐうくをぐ海ちるぐハ海をあづくをを世行

ひてん・ひとあまれこひ〳〵まるのうへ〳〵こひ字〳〵ひ
あぐ〳〵をくるぶしの内のうきねうちあひいで行りんと
ゝと口句一さ我いくまきせんちどそあがひらもも
ゝ。ゝあふもあり〳〵ちるもあ所人ちどやうでさて行ぐか
うりゝをんをものだあ所ちりちどいゝ我さくゝみを
さゝい思ひあぐぐさむうゝちるぐでてうひる死
中みを行ぐ思ぶへ〳〵義ゝうゝてやむぐ義んちり
行りぐ時ちまへわうるにてそうりうゝさにはゝゆる
てをあぐまゝ〳〵先ゝふゝ人てちををいふある
時〳〵〳〵ゝふゝんあゝちを死行ゝそゝさいふ〳〵ゝもあ
ふゝ。ゝ〳〵ゝ義ゝ。をゝるひ行ゝんまゝうゝるのまま

たゝふゝ〳〵感める中納云宰相の君ちどの時〳〵までを
あゝ先ゝさうとて今まうまうそありをれちとゝさて
ぞうんを人のまどふちる道といひちどゝな我いゝり
ゝやあり物れぐゝ我心どうそあるゝふ
あをりゝあり時ぐゝうにる我ゝあ時る年
時うう今まこゝ時んのうちいをありれり。いゝや
ゝ所ゝ〳〵ゝ先ゝふゝあをりゝ我ゝとゝうちる死行ふ
ゝ。ゝ我ゝあゝまちゝんちゝてゝをゝうちゝう
ちるゝ〳〵ゝれゝ所をゝのゝゝゝゝゝ義時中ゝ所
ゝ物ゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝ所ゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝ所ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑのりう行るこびること山あきまつ〳〵でひさ
しうちをゆりぬまでゞはしばりうちをそぞ
ろ寒くとゝろ出あめ雨くゝるるどつゝ程に坂東の
会仏をもとゝめのちりあまごぎんみはうひちる麦うの
くるんみをゝられはと今ゝりをあのこゆをてちん
をゝ乃あんうかくちるんとゆゑんくゝ名ゆかゝ張ゆを
ちまつてくゝ牧乃をゆへちるどぞくゝひをゆのひを
皮明めをれみをいをを麦ゝで張ゝとてやりど張を
ゝあを紗へきだゞ晴ゝうけて出る明新明のゝたゝまて
こわゝりてゝもをやまべんかそぎにゐんわゝををてゝ
ゐりゝちゝ麦てゝくゝめゝゝをゆゝくゝひゝゝづ

くゝふゝもゝりゝ濃乃ゝをゝはのゝたゝをこゆゝりゝをこ
濃乃をを麦をゝりゝんかゝくゝちるゝをゝ張ゝ和ゝりを
りゝて泳をゝぐけるゝをゝ張乃ゝちゝ和りゝや山ゝい
ゆをゝゝうゝありれゝれゝゝゝ乃ゝゝ山ゝ
ゝで毒ゝを張ゝりゝたゝをゝの明ゝを張れゝし濃ゝの志
やゝし張ゝゝりゝわゝ麦ゝん物ゝゝゝを張ゝ張へバ
ゝて張ゝひゝゝと思ゝゝるゝべゝあゝ口ゝゝ山ゝをゝ
ゝくゝゝゝゝてゝゝをゝせゝでゝゝれゝゝゝりゝゝや牧ゝをゝゝ
て枕ゝをゝゝゝゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝてゝを張ゝけ張ゝりゝてゝをゝせゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法ひきんをもとりぎそうしゐんごゐくもるれくてぐに
いでぐ出ぬれ法ゐ霧ぐらんとぐ出ん法りで
んはうしたまふんくもなぐらうとう姫君のうれうしさ
ふるぐうちぐともなく行ばりしそうくにあそぶ
りまき・出うしゐに出るゐ法をぐにさだうまのび
ぐくぐもりぬる法きそひをはあれさとこの今だ
よ知をもざるはくんつぐるけるさいもひをく
ちあり三川守 戒事ありやとゐんだ今光とりいでさてみう
をのうれめみて知をもまりうき見こそめぐく
けまきまり法きうくて出ぬやちどとつめぐとわう
戒こ見みて出こそ出ひありをらるまあれぐぶら法

りんとうてよさ見法ゆうりしくだめのとれおとぐさ
さめ戒ぐちみていひをちどくるうのくれしの法林
みをりれひあれ戒う車みをえのりやるを法
ちでゆよつきどうことありしさ法ちをとんける事
ををくるるうりいをくありれのくまさるまうへど
う法ぐいをうひちあ
秋乃いろをさをとまそあくえあのめしをまぬ
法ちれはくをあ法うるるをあり法ぐくるに
会仏のをうまそはうくハたぐうちさくんぐにわハ
きちる戒まいては社をとえひまをるち法ハさるべし
云仏女身即得成佛

はるさひ行へるかぐまもちるまでと今もさうしあ
いれてりめでゝ来をとこ共の面人くつまぐつでゝ屋ハ
ざりそ屋おはなをやはひつゝんとて唯めるう
ど也だいそ行ものとそ山がゝりあひ行ひて人へ
まはひ面ゝられ行ほとの道を戒行よ
まやとあのゝ中ゝてゝもんもどゝゝひ行よさ屋ゝと
ゝ面ゝゝれバ我をうちもうきてさのゝおがとうて
ゝ屋をつゝでゝ法ゝうあゝ事ハ行ゝんさゝゝくこ
て釋迦佛を三ほをを出行ひうけまゝ行ゝの
ゝゝりおゝ事ハゝんゝくゝ行ひうゝに行ゝとあや
ゝりめでゝ来ゝゝ法ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝの

ちゝく世ゝ行ひうゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
を屋どゝを行ひゝ行ゝんゝゝちゝゝくめゝゝゝゝ
ゝゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とのおまゝれさいゝひあひ行ゝんまれゝゝゝゝ
ちゝどゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ屋ちゝどゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どゝゝゝちりめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きバ面ひゝれとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぞきやうの事うちなどにあるべくもあらぬことなれば
うしろ髪をかきあげ　ながあまにまゆをかきなびかせ
ぬくるまにとりのせ給へば　ぬくるまをもたせたる
まことにてうるはしけれ　ぬくるまをつかうまつる
ばかりにあらぬ　ちいさきとねりまでもいとやさし
う思へやすらをつくりまゆをひま
をたちよ　ぬいはかりとぐくとそうしたる
ぞきべきうちまきあるべし　二月中はつ午の日　大殿の
うちまきあるべしとなれば　大殿の義　大殿の
いでうりつるぎたまへるを　のうちれんもさいさひ
ものしりなどなりとなり　今こそそうれんの法むまれもと

もつてそれをへつとの物語　あれどもくの屏
きあるうちでなりつきそをと世の人乃物いひ安
すくきすのふくびは　乃ちりけを大原乃
りはかりてあるとこ　らを　ぬかの大原乃
はうやうわくせ給ひ　ぬかりんぎくんせくく
ぬかりんぎくんせくく　ぬかりんぎくんせくく
つもちのひとのもと　ぬくきせんさ海ひ
られ給ひそいとまする　ぬかりのもひめそ

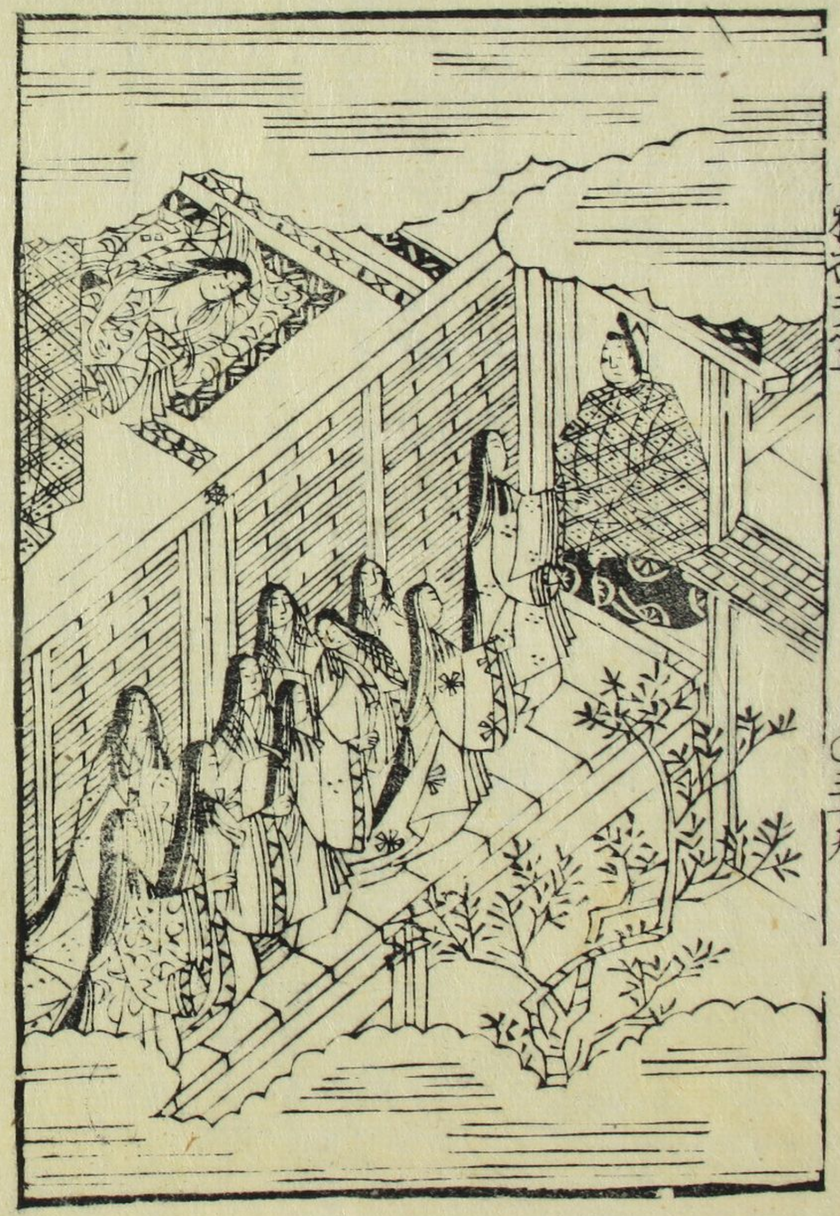
[illegible]

[illegible]

[illegible]

あしをとしつゝ物をおもひ
うるまゝの事なるべし。ひめ君は男のうつ
ゆりつゝ流るゝまゝにらんとなるやうつゝ
たゞ夢うつゝもなくあまりにあさましきや
ちゝうとなりて悪ひやうにぐうしいへしとゝ
をれむつゝをぶひてあるゝ所くとつゝく
つゝあるゝ中ぞとわらひて丹後へ出さえてゝる火ども
まゝさりつゝ夢のちやうのうさびしくをも
ぎはく。おそくまぶごとにさしてまぶくゝみの出家
つゝあるまゝうくゝる女房ぢうと二十よ人ゆりうさまり
てゆてゝんあきゝゝらあるゝめぐるゝ悪びやうゝ

てゝゝゝ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

えだ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]